



子どもたちには 正しい学び方の指導を

一般的な学び方とともに、学習者自身の主体的条件によって規定された個性的な学び方がある。教師は、その両方に注目して、学び方を研究し、子どもを指導する必要があるように思える。学習において、子どもたちが考えたり、想像したり、分かっていくに困ったりすることは、子どもの顔がそれぞれ違うのと同様に、どれもこれも個性的である。学び方の指導にあつては、子どもの内面的過程の指導が重要であり、それこそ、実践的知恵として、教師が身につけるべき力量の一つであると思うものがある。

ところで、「教え方がうまい」という言い方があるが、この評価は、教師の評価として総合的なものであつて、指導技術に還元できない全人的なものである場合が多いように思える。教え方がうまいといわれる教師は、いずれも、子どもに興味をわかさせ、「やる気」を引き起こしながら学習指導を行つており、学習における子どもの内面的過程の指導には、教師の全人的なものが深くかかわっているものである。子どもの隠れた意欲を掘り起こし、学ぶ意欲を育てるために、教師は常に創意工夫と豊かな人間性を培うことが必要であると思うものである。

現代の子どもたちが、情報の洪水に流され、専ら受動的な情報の受け手になり、物事を深く追求しない傾向をもつことも否定できないことであり、そうであるからこそ、教師は、学力に「学ぶ意欲」、「学び方」、「学習到達度」の三層のあることに十分留意し、学習指導を行わなければならないと思うものである。また、学習指導には、教師の人間性、学識、自覚が複合的にかわつてくるということを認識し、教師は自ら職能成長のために努めなければならないことも確かなことと思える。

提 言